

児童数推計資料（令和7年度版）



目次

01 児童数推計の概要について

本児童数推計を実施した経緯や使用したデータ、採用した方法等、児童数推計の概要について紹介する。

02 児童数推計における留意点

本町の最上位計画である「上牧町第5次総合計画（後期基本計画）」において採用している将来展望（人口ビジョン）と本児童数推計との相違点等について紹介する。

03 児童数推計の流れ

本児童数推計の流れ（手順）について紹介する。

04 児童数推計結果

本児童数推計の結果について紹介する。





児童数推計の概要について



児童数推計の概要等について①

本推計作成の経緯

上牧町では少子化による児童生徒数の減少及び学校施設の老朽化等に鑑み、**子どもたちにとって望ましい教育環境や学校づくりを目指すに当たり、令和4年3月に「上牧町学校適正化基本計画」を策定**しました。

小学校の統合方針については、当該計画において以下のとおり示されていますが、令和7年度に人口動向等の調査を実施し、方針の妥当性について検証を行ったうえで、最終的な方針を決定することとしていることから、本児童数推計を実施するものです。

(参考) 小学校の統合に関する方針

「上牧町学校適正化基本計画」において示された小学校の統合方針は以下のとおりです。

- ① 適正規模 2校
- ② 配置方針 上牧小学校及び上牧第三小学校
- ③ 統合時期 令和11年度から令和13年度
- ④ 施設整備 未定



児童数推計の概要等について②

本推計の概要


本推計は、将来の町立小学校に在籍する児童数について、「上牧町学校適正化基本計画」策定後（令和4年4月から令和7年4月）の人口動向をもとに、改めて児童数推計を行ったものです。なお、本資料は、下記の資料を用いて作成しました。

推計に用いた資料

本推計の作成に用いた資料は以下のとおりです。

- ① 未就学児童及び児童生徒数（住民保険課）
令和4～7年の3月末（4月1日）時点で住民基本台帳に登録されている未就学児童（0～5歳）及び児童生徒（6～14歳）地区別に整理したものの。
- ② 15～49歳女性人口（住民保険課）
令和4～7年の3月末（4月1日）時点で住民基本台帳に登録されている15～49歳の女性人口を地区別に整理したものの。
- ③ 児童生徒数（教育総務課）
令和4～7年度の学校基本調査（5月1日時点）に基づく児童生徒数。
- ④ 校区（教育総務課）
町立小学校に就学する児童の通学すべき学校を指定するため、設定している区域。





児童数推計における留意点



児童数推計における留意点

総合計画（将来展望人口）との相違点

本町の人口に関する指針として、最上位計画である「上牧町第5次総合計画（後期基本計画）」において、令和42年（2060年）までの将来展望人口を掲げていますが、本推計とは異なる点があります。

総合計画（将来展望人口）との相違点

総合計画（将来展望人口）と本推計の相違点は以下のとおりです。

① 推計単位

総合計画では、町全体の人口を5年単位で推計していますが、本推計では町立小学校の児童数を3年単位で推計しています。（令和4年～令和7年の実態をもとに推計をとっているため）推計単位を小さくすることにより、将来の変化予測の精度は落ちるものの、現況が大きく反映された推計とすることができます。

② 基礎データ

総合計画では、国勢調査（確報値）をもとに推計していますが、本推計は住民基本台帳及び児童数をもとに推計しています。

③ 目標と予測

総合計画では、町の魅力を維持し、適切に行政運営を遂行するために必要な人口目標として将来展望人口を掲げていますが、本推計は、統廃合について検証するため、過去の人口動向や在籍児童数をもとに、現実的な予測として行っています。

（注）推計手法については、総合計画と同様、コーホート変化率法（2時点の変化率のみを設定し、男女年齢別の人口を推計する手法）を採用しています。本手法を採用した主な理由としては、人口規模が小さなエリアでも集計が可能であり、推計に必要なデータの取得が比較的容易で、計算手法や考え方が理解しやすいという特徴が挙げられ、小地域の推計に対応し、理解しやすい本手法が本推計に適していると判断しました。





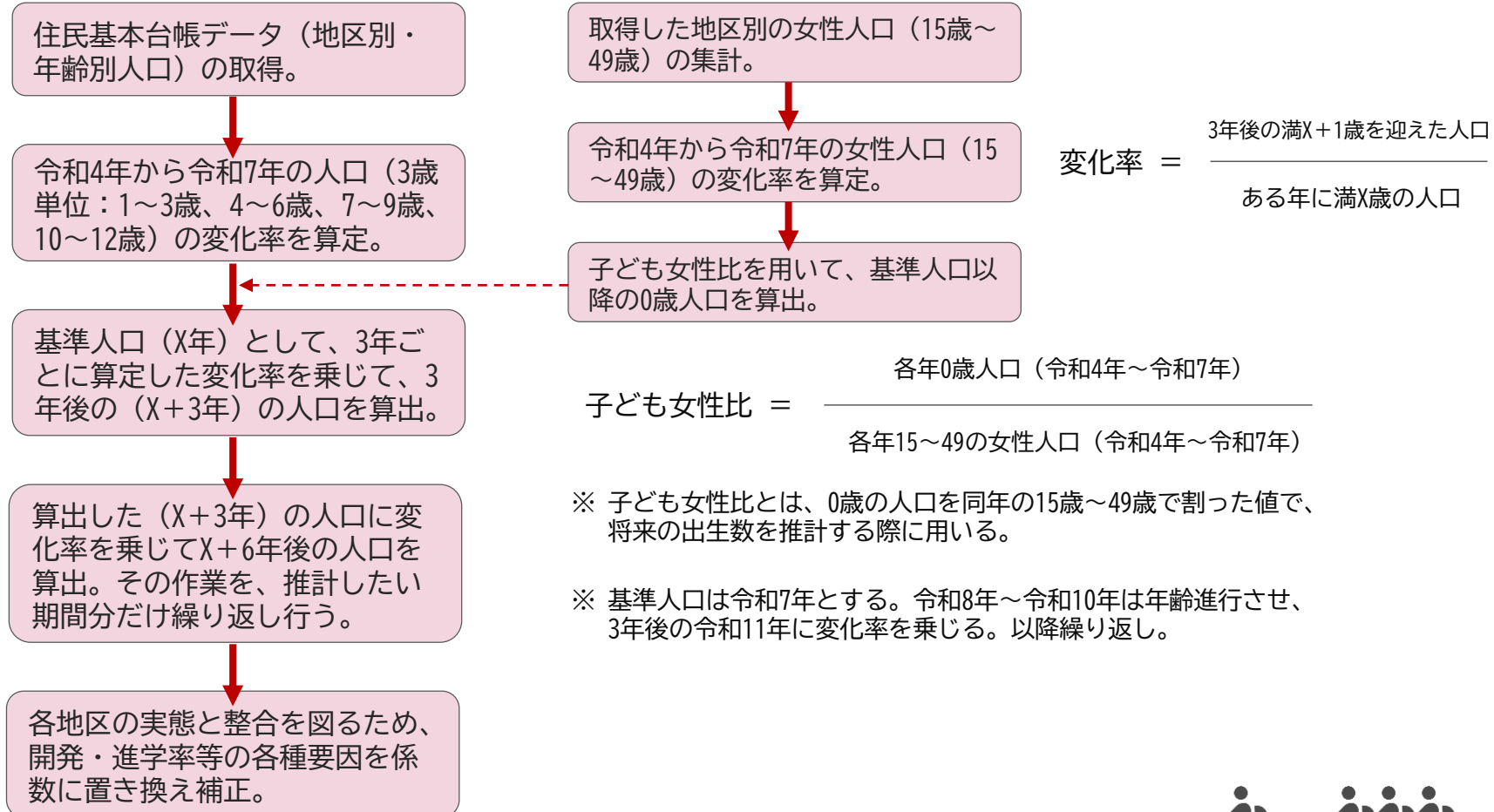
児童数推計の流れ



児童数推計の流れ

推計作業の手順

本推計に当たっては、以下の手順で進めました。



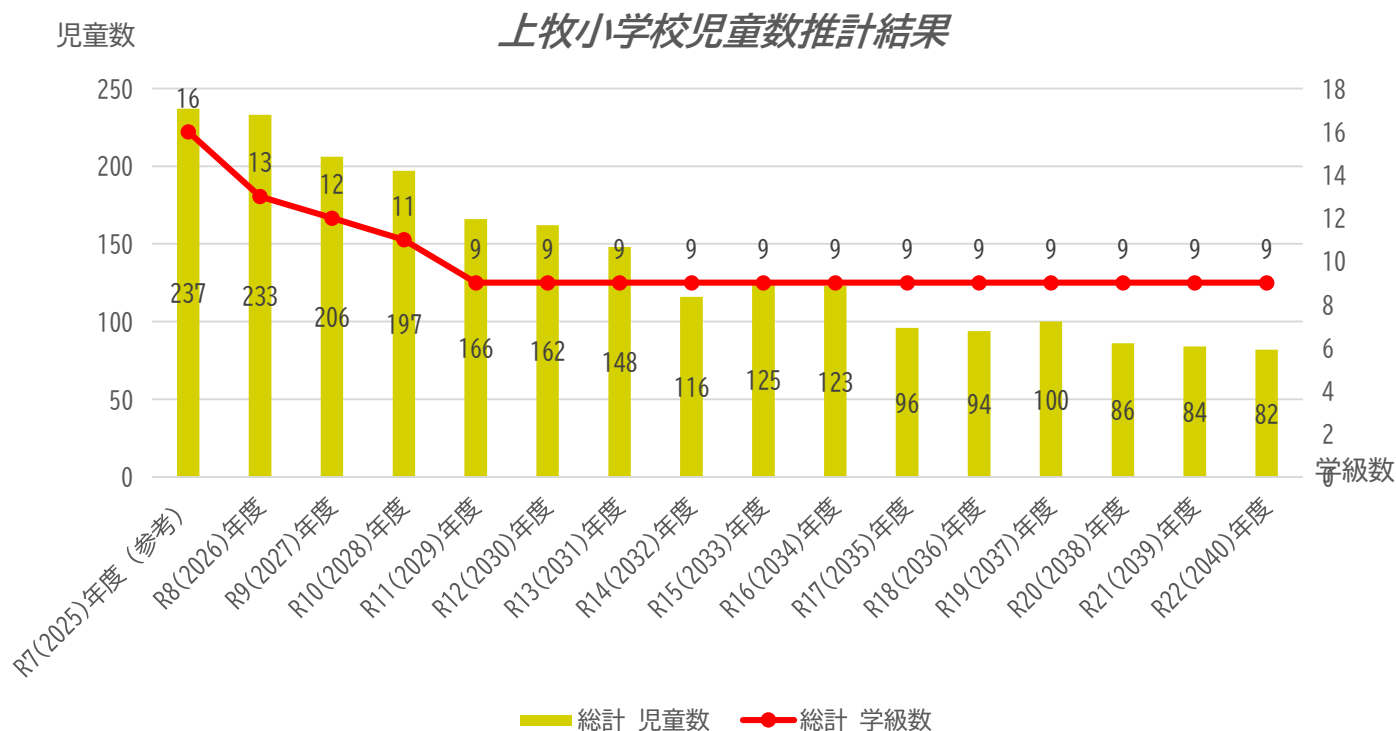


児童数推計の結果



児童数推計結果（上牧小学校）

上牧小学校における令和7年度児童数推計の結果は以下のとおりです。



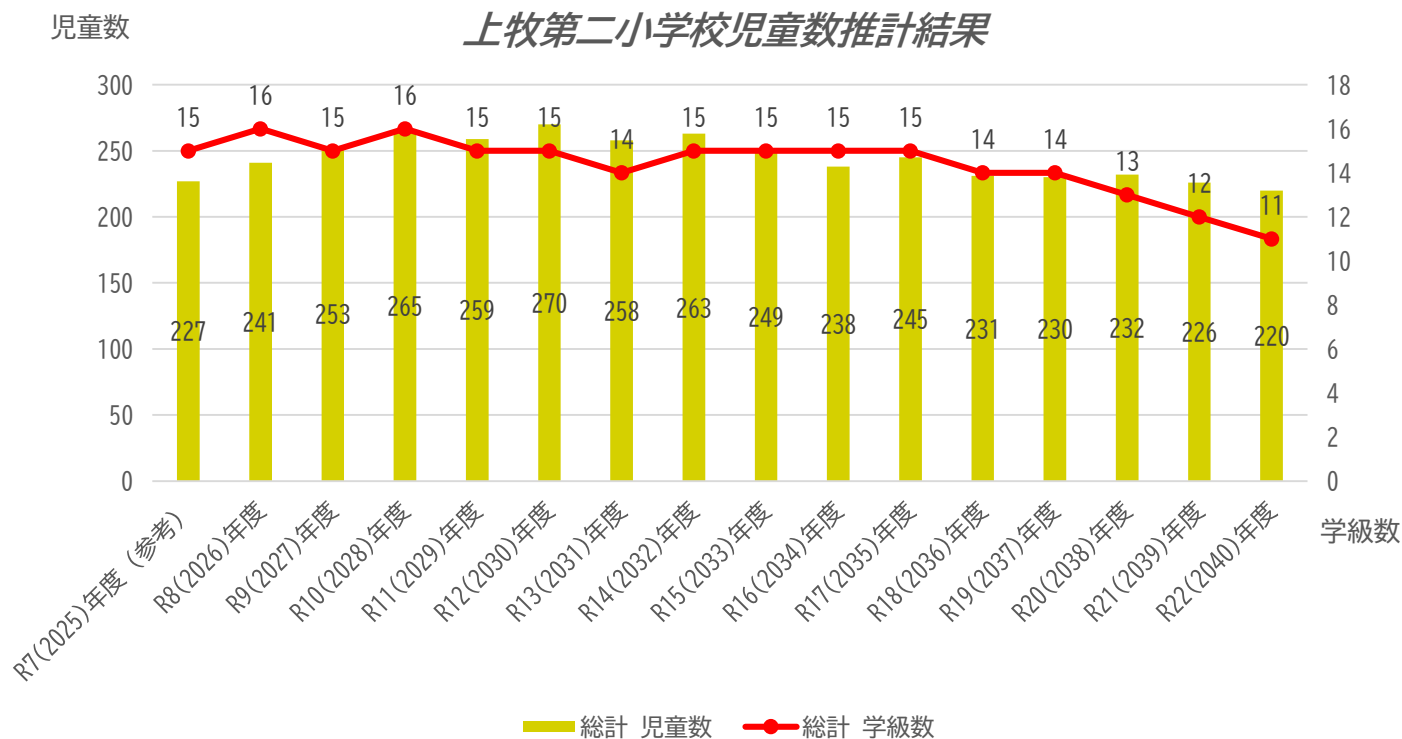
(説明)

上牧小学校区は旧村が多く、現時点で大きな開発などの予定もないため、人口が増加する要素がありません。このまま推移すると令和11年（2029年）には全学年が1クラスとなる見込みとなっており、令和20年（2038年）頃には全校児童数が100人を割り込むことが予想されます。また、特別支援学級児童数も全体的な児童数の減少に伴い、減ることが見込まれています。（詳細別紙）



児童数推計結果（上牧第二小学校）

上牧第二小学校における令和7年度児童数推計の結果は以下のとおりです。



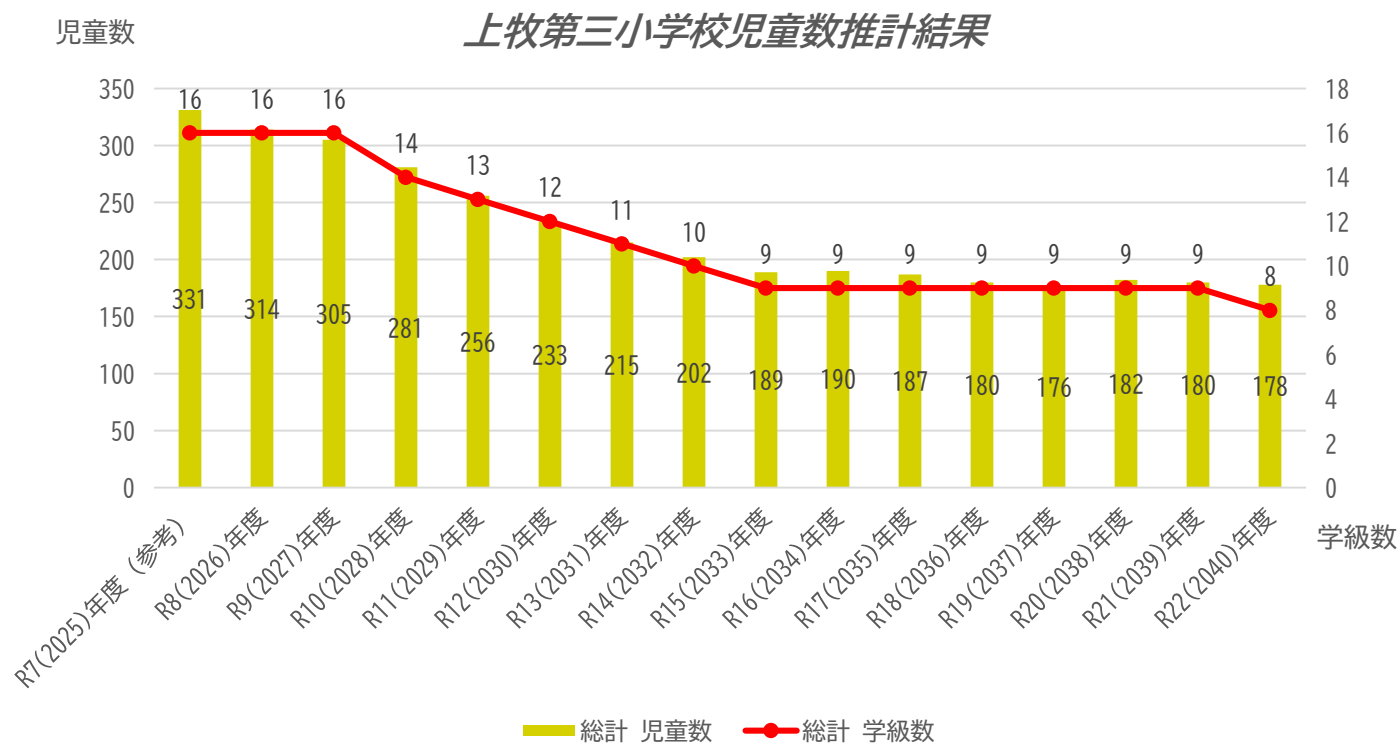
(説明)

上牧第二小学校区は下牧3丁目や桜ヶ丘2丁目地区の開発により、年少人口が増加傾向にあります。また、近年人口減少が顕著であった片岡台地区においても、年少人口の減少に歯止めがかかっており、当面は現在の児童数を維持する見込みです。特別支援学級児童数については、児童数の増減に応じて、前後しますが、現在とほぼ同程度を予想されています。(詳細別紙)



児童数推計結果（上牧第三小学校）

上牧第三小学校における令和7年度児童数推計の結果は以下のとおりです。



(説明)

上牧第三小学校区はこの10年間でささゆり台や滝川台地区の開発があり、令和6年度まで児童数が増加していましたが、開発が落ち着き、今後は徐々に児童数が減少する見込みとなっています。特にささゆり台地区では、現在多い学年では30人近い児童が在籍していますが、令和15年(2033年)には全学年1ケタの在籍数となり、同時期には全学年単学級となる見込みです。

